



題 字
初代会長 松野盛吉
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 高橋正尚
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
http://www.shoubou-akita.or.jp
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

号 外

今後の消防団のあり方、 役割を考えるシンポジウムを開催

近年、全国的に消防団員数の減少に歯止めが掛からず、地域防災力の確保に深刻な懸念が生じています。本県でも減少数が拡大しており、加入促進が喫緊の課題となっています。

新たな消防団員の加入を促進するためには、若い世代がやりがいを実感し、誇りを持って活動出来る消防団であることが重要です。

このため、若い世代の考えを発信して共通の認識を深めることを目的に、2月17日(土)イヤタカ(秋田市中通)においてシンポジウムを開催したところ、消防団や消防本部の関係者約150名が参加しました。

主催 秋田県消防協会
共催 秋田県

後援 秋田県消防長会

初めに、愛知県安城市消防団 元団長 太田佳男氏が、「何の為に? なんのために? ナンノタメニ?」と題して講演しました。

次に、県内3カ所で開催したワークショップにおける若手の意見発表や、県内消防団による活動発表、「**私たちが望む消防団**」というテーマで、発表者がパネルディスカッションを行いました。その後、秋田市消防本部土崎消防署副署長 宇佐美晃市氏の司会と太田氏のアドバイスで会場を含めた意見交換を行いました。

消防団のあり方、役割を考えるシンポジウム 「働きやすい消防団、やりがいのある消防団」



開会のあいさつ(和田総合防災課長)

講演

『何の為に? なんのために?』

ナンノタメニ?』

総務省消防庁消防団等充実化アドバイザー
愛知県安城市消防団
元団長 太田佳男氏

■太田佳男氏の経歴

- ・愛知県岡崎市出身
- ・平成12年 安城市消防団入団(26歳)
- ・平成15年 副団長(30歳)
- ・平成29年 団長(44歳)
- ・令和5年 安城市功労賞、消防庁長官表彰功労章、秋の褒章藍綬褒章、消防団等充実化アドバイザー委嘱

・現在 安城市機能別団員 広報相談役



太田佳男氏の講演

■講演の概要

今日は、安城市消防団の改革をした結果こうなったという話をするが、これが正解ではない。この内容からヒントを得て、各市町村に相応

しい改革に繋げてもらいたい。伝統は革新の連続。伝統を繋げていくためには革新を続けていく必要がある。次に、私が手掛けた取組を紹介する。

愛知県岡崎市出身の私は、安城市に婿養子として来て家業のサツシ業に従事していた時に消防団に勧誘され、「いいお婿さんだ」と周囲に認められたい一心で、よく分からないまま入団した。

26歳で入団し、班長も分団長も経験せずに30歳で副団長に抜擢された。団長に理由を聞くと、生後間もない長男を風呂に入れてから操法訓練に駆け付ける私を見て、「これからの消防団は、家庭、仕事を優先できる人材が皆を引っ張っていかねければならないから」と言われた。この時の経験が、後に団長として団員と向き合う時、「家庭、仕事、消防団の順」を基本とすることに繋がった。

団長3年目にコロナで操法訓練ができない時期が続いた。毎年70人くらいが入れ替わるので、新規団員が火災現場で安全に活動できて機材を一通り使用できるようにすることを目指すこととし、操法大会を止め、消防活動競練会に切り替えた。

他にも、株マキタの協力を得た救助資機材訓練、台風を想定した水防訓練、自動車学校の協力を得た緊急車両訓練、福利厚生生の拡充も行った。また、消防団の活性化というテ

マで「安城市消防団あり方検討会」を設置して、団員10名と市の担当者で検討を行った。その結果、団員勧誘には、消防団活動の経験によって得られるメリットを明確に伝えることが大切であることに行き着いた。

今の若者は「何のためにやっているのか」が明確でないと動かない。自分にどれだけメリットがあるのか、今後の人生に役立つかを考える。

消防団で活動することは、社会人としての基礎である人間力UPに最適。人間力とは、粘り強さ、チームワーク力、主体性、コミュニケーション力、利他の心。前向きでボランティア精神の高い若者の育成の場だ。

こうしたメリットを町内会と共有して、一緒に新規団員の勧誘に取り組み、消防団員経験者を一人でも多く増やすことが地域防災力の向上に繋がる。

安城市消防団高棚分団では、このような町内会の自主防災組織と消防団との連携が理想的な形で行われており、大規模災害時の役割分担や、消防団員加入の仕組み、消防団員を輩出した家庭への配慮がうまく機能している。

消防団のあるべき姿に正解もゴールもない。その地域にあったやり方が一番。何もしないでは何も変わらない。まず一歩踏み出すことが大切であると考えている。

パネルディスカッション
テーマ『**私たちが望む消防団**』

コーディネーター

秋田市土崎消防署

副署長 宇佐美晃市氏

アドバイザー

愛知県安城市消防団

元団長 太田 佳男氏

パネリスト

大仙市消防団 班長 一色順子

大館市消防団 班長 佐藤美佳子

大館市消防団 団長 武田博康

美郷町消防団 班長 高橋 準

美郷町 住民生活課長 木村英彰

女性消防団ネットワーク会議準備委員リーダー

大館市消防団 分団長 畠山留美子

若手消防団員活性化推進チームリーダー

秋田市消防団 班長 高橋充秀



会場とのディスカッションの様子

初めに、パネリストが、それぞれの活動と成果について発表しました。

① **大仙市消防団の発表概要**

第28回全国女性消防団活性化石川大会では、活動事例発表として、使用しなくなった半纏や消防ホースを活用してカバンや小物にリメイクする「リユースグッズ大作戦！」で防災意識を地域に広げていることをアピールした。

なぜこの活動をするのか？

地球温暖化対策が待ったなしの現在、私たち消防団員が、普段の生活から消防団活動まで、環境に配慮した取組を積極的に取り入れる必要があると考えた。

小さな取組だが、ゴミとして廃棄するのではなく、少しの時間を掛けて再び使用できるものに変えることにより、団員募集に活用するグッズ、子供の防災教育物品にリメイクするという「SDGs」に繋がる取組になっている。

さらに、消防団員と地域の皆さんとの間を取り持つコミュニケーションツールとして、防火・防災を語る切っ掛けにしたいと考えている。

この「リユースグッズ」の活用方法は、無限に広がっていくと思う。



大仙市消防団のリメイク品

② **大館市消防団の発表概要**

県の消防団加入促進モデル事業を活用して、大館圏域産業祭（二プロハチ公ドーム）で消防団活動体験イベントを実施した。

大館市消防団の特徴である纏振りを披露したり、秋田住みます芸人「きり亭たん方」やご当地ヒーロー「コウライザー」が登場してステージが大いに盛り上がった。特に、纏振り体験は、他のどのイベントよりも盛況だった。

また、来場者が防災マップを作成したり、防災クイズに答えたりすることによって、身近にある危険に対する理解が促進されるように務めた。



大館市消防団の発表

参加した団員に対するアンケートでは、「参加してよかった」「来年度もPRイベントを行った方がよい」という回答が非常に多かった。「イベントを継続した方がよい」「入団窓口を設けて加入のアピールが必要」とする一方、「消防団に興味を持っていく人が少ない」「団員増加につながるか疑問」という意見もあった。

やる前は、「めんどくせえな」と感じた団員が多かったと思うが、やってみて、「やって良かった」が大多数だった。先ずは「やってみる」が大切。行動することで団員の意識が変わることを痛感している。また、イベント後に数名から入団希望があったことも成果である。

③美郷町消防団の発表概要

今年度、当町が行った消防団PRを紹介する。

毎年開催され、7000人くらいの来場者がある「美郷フェスタ」で消防団紹介ブースを設け、消火器を使った消火体験、ちびっ子用活動服を着て記念撮影、消防はしご車体験乗車などを行った。

小さい頃から興味を持ってもらい将来の入団に繋がるよう心掛けた。2日間の行事だったが、幼稚園児から小学校高学年までに大変好評で、付き添いの大人にも消防団をアピールできたと思う。

秋田住みます芸人「ちえす」によるお笑いステージ、団員とのトークショーを行った。また、町びと劇団ゼンマイ座の脚本家に、消防団員減少によって地域が困っているストーリーの作成を依頼し演じてもらった。

このほか、県の消防団加入促進モデル事業を活用して作成した団員募集パンフレットの全戸配布、地元広報誌に唯一の女性消防団員の活動紹介を掲載、町の消防操法大会の動画をYouTubeにUPするなど、様々な方法で団員募集をPRしている。

現在の団員数は310名で、昨年退団21名、入団4名。今日紹介したPRによる効果は不明だが、問い合わせは何件かあるので、今後成果が出ればよいと期待している。



美郷町消防団の発表

④女性・若手によるワークショップの成果発表の概要

【活動内容の紹介】

女性消防団ネットワーク会議委員、若手消防団員活性化推進チーム委員、女性や若手の団員が集まり、県内3カ所でワークショップを開催した。

『活動しやすい消防団「私たちはこう考える」〜変えていいところ、変えてはいけないところ』というテーマで、私たちが目指す消防団のビジョン、私たちができることについて議論した。議論の中で最も深刻な問題として認識されたのが、全国的な消防団員の減少問題。秋田県の団員数は、令和4年で15131人。直近5

年で1700人が減少。このペースで推移すると、令和14年に11600人(77%)、令和24年に8100人(54%)まで減ってしまう。

【ワークショップでの意見】

- ・操法大会の練習がしんどい
- ・プライベートの時間が削られる
- ・活動の強制感が強い
- ・マイナスマネジメントが多く、マイナスはあっても消防団は楽しいじゃないかという意見は少なかった。

消防団に魅力を持ってない、メリツトを感じられないことが減少の要因と考えられる。

対策として、私たちが考えた提案は二つ。

【団員減少に歯止めを掛けるために】

提案1ー①消防団員による積極的なPR活動

積極的な加入促進、PR活動の具休策として、「どこで?誰に?」という切り口で3パターンを考えた。

◆パターン1

地域・町内会等の集まりの場で、地域住民に

◆パターン2

消防職員が参加・主催するイベントで、参加者に

◆パターン3

職場・自宅・プライベートで、同僚、家族、友人に

何をPRするのは、次のとおり。

【提案1】 まずは所属消防団、分団のPRポイント（魅力）を協議・共有

地域の安心安全と一緒に守ろう	友達が増えるよ
参加は負担にならない程度でいいよ	個人ファーストだよ
防災や救命についてスキルアップできるよ	有事に役立つよ
火災出動みたいな危険な活動だけじゃないよ	地域貢献できるよ
友達や同僚、家族と気軽に入団できるよ	部活感覚だよ

今まで以上に、個人、家族ファーストを尊重

提案1ー② 常備消防と協力してのPR活動

◆HPやSNSで消防団活動の紹介
消防団活動の見える化。火消し以外の活動を知ってもらおう。365日活動しているわけではない。

◆次世代の消防団員育成のために
小学校、高校の防災教育として消防団を紹介。子供の頃から消防団に慣れ親しむ環境づくり

◆管轄企業からの入団員確保
同僚の入団勧誘、消防団活動への理解促進・協力依頼

提案2 退団抑止に向けた魅力アップ
今いる消防団員が楽しくイキイキと活動できる環境をつくり、魅力的だと感じられる消防団にするために、次の3つを変えることを提案する。

【提案2】 退団抑止に向けた魅力アップ

- 操法大会のあり方
競技大会ではなく、お披露目会としての開催（参加希望制や輪番制）
- 規律訓練(大会)のあり方
大会としての開催よりも規律・礼式を学ぶ機会を増やす
- 講習・研修の充実
講習受講・免許取得、資機材の取り扱いを覚えたい実践的な講習・研修を増やして実効的なスキルアップを図る

お互いに出来ること、してほしいことを共有、明確に!!

【まとめ】

- ① 旧来の消防団のイメージからの脱却と変革が必須
- ② 地域社会の変化に適応した消防団のPRポイントを共有
- ③ PR活動、魅力アップ活動で旧来のイメージ払拭

消防団のイメージアップ・加入促進



女性・若手の発表の様子



■太田佳男氏コメント

①勧誘は熱いうちにしよう

イベントでブースを作って入団勧誘するのはよい試み。入ってみようかなと思う瞬間が一番。「後で連絡し

ます。」と言われても連絡はない。そのため、安城市消防団は途中入団を可能とした。入ってもよいと思った時に、入ってもらったほうがよい。

②事業所へのアプローチ

安城市では、毎年4月、市長名で各事業所あてに「この社員には消防団員として地域に貢献して頂いており、訓練に参加することもありますが、ご配慮をお願いします。」という趣旨の書簡を送り、3月には消防団長名で「この社員のお陰で1年間活動することができました。」という礼状を送付する。市長と団長から2回送られると、しつかりやっているんだなと社員を見る目も変わってくるはず。

■宇佐美コーディネーターまとめ

①発表者に共通していたのは意識を変えるということ。若い団員と幹部団員の認識は同じではない。今の消防団活動が現代のライフスタイルに合っていないことが、退団数の増加に繋がっているように思う。

②今置かれている環境、一人ひとりの意識を変えることが必要。安城市消防団の活動から学べることを見つけて取り入れて、新しい消防団への改革に向けて行動して頂ければ幸いです。